



新鮮野菜がそろう道の駅

①平成21年4月にオープンした道の駅「大山恵みの里」は、町民のさまざま意見の中スターとした。町より補助金2000万円が支出されている。これまで一度も町民に来場者数・收支状況が示されていないが、現時点での現状と課題は。



諸游塊司議員

## 道の駅の收支状況は

おおむね順調な運営

料を支払っているが、その収支報告の義務付けや公表するシステム作りが必要ではないか。

取り扱い高が約4400万円でおおむね順調な運営状況である。

①「道の駅」の11月末現在で、物販・飲食部門の売り上げが8200万円で営業利益は800万円である。流通部門では、

② 隨時の収支報告・誘  
客数の報告は常に求めて  
いるが、町民に公表はし  
ていない。

## 農産物加工所は成功するか

町長 爰託商品からスタート

問 農産物加工所の安全祈願祭が11月24日に行われた。平成22年の4月才一  
ポン、6月のフル操業

トを切つた。農・商・工連携の主たるものでもある。農家所得向上のためにも是非成功しなければならない。

①町内の農家所得の向上はどのくらいになるか。  
②学校給食への供給は計画にはないが、なぜか。  
地産地消が第一原則ではないか。

③町長の赤字は出さないという強い意志は理解する。新規に就任された専務理事の人事費が年間約1000万円となるが、町民が理解できると思う

答 森田町長 ①初年度の売り上げ目標を約6000万円としており、約1000万円が町内の所得につながる  
②赤字を出さないため従業員の習熟が期待できる受託商品の製造から安定操業を始める。その後独自ブランドの製造を行う。安定してから公共性の高い給食用食材の加工を始める。  
③加工所の運営・道の駅・流通関係等の体制強化を考え総合的に判断をし、公社の役員・評議委員会で結論を出した。

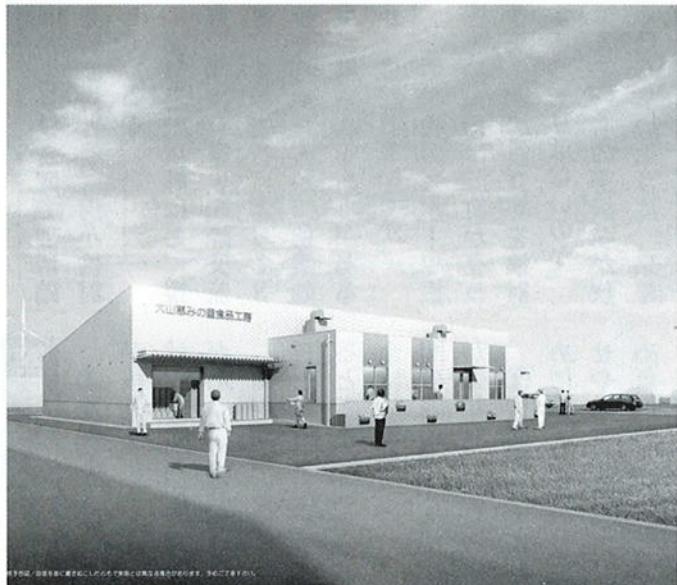
②選挙公約に「ハコもの行政を変えます」と主張したが、ハコもの行政の典型ではないか。

答 森田町長

①山香荘は昭和57年にオープンしたが、現在は利用者の固定化による収入の伸び悩み、施設の老朽化による維持費の増加が問題である。

費用対効果の具体的な検討には至っていない。

②施設は利活用があるなら、必要である。



### 農産処理加工施設完成イメージ図

## サッカー場の計画は

**町長** 具体的な検討に至っていない